

関西大学特色GP第2回シンポジウム
若い世代をとともに育てる組織として
学生の力を活かした小中高大連携
の新たな展開

特色GP「人間性とキャリア形成を促す学
校Internship」第2回シンポジウム

2007年1月15日

取組責任者 文学部教授 品川哲彦



関西大学の特徴(1)

- 教育大学ではない
- 教育学部をもたない
(2007年度から初等教育学専修を文学部に設置)
- 7学部(現在。2007年度から10学部)を擁する
- 教育実習を体験する学生は、毎年、400-500名
- 学校インターンシップ体験者は全学部にわたっている



本取組のコンセプト(1)

- キャリア形成をうながす
 - 大半の学生にとって、教職はひとつの選択肢
 - 学校現場での体験をとおして自分の適性を確認する
 - 教育実習よりまえに、教員の仕事、学校現場を多様な面から知るチャンス



本取組のコンセプト(2)

- 学生の人間的成長をうながす
 - 年少者に接することで、「おとな」としての責任と自覚を身につける
 - 教職につかないとしても、社会人、家庭人になるには必要＝広義の教養教育
- ⇒Q: 教員にとくに必要な資質とは何だろうか？



関西大学の特徴(2)

- 学生数(学部・大学院)約28,000人
- 全国から入学 学生の居住地・出身地が広範囲
 - 自宅通学生も、かなり広い範囲にわたる
- 連携協力協定を締結した教育委員会の数
 - 2003年度 4 ⇒
 - 2004年度 12 ⇒
 - 2005年度 16



関西大学の特徴(3)

- 教育委員会との連携の広がり
 - 2003年度： 大阪府、神戸市、大阪市、長岡京市
 - 2004年度： 高槻市、吹田市、東大阪市、茨木市、箕面市、豊中市、摂津市、京都市
 - 2005年度： 伊丹市、寝屋川市、河内長野市、宝塚市



本取組のコンセプト(3)

- ジェネレーションギャップの解消

- 大学生と年少の世代
- 現役教員と大学生
- 大学生を介した、教員と児童・生徒

⇒Q: 学齢ごとに分断されがちな、また、少子化ゆえに減りつつある若い世代のつながりを生み出す必要がないか？

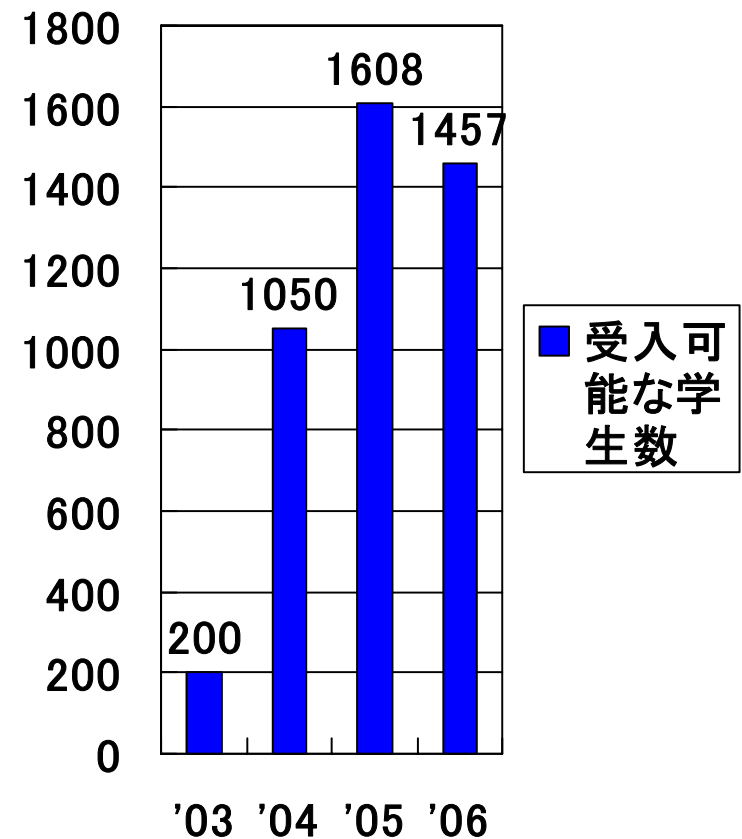
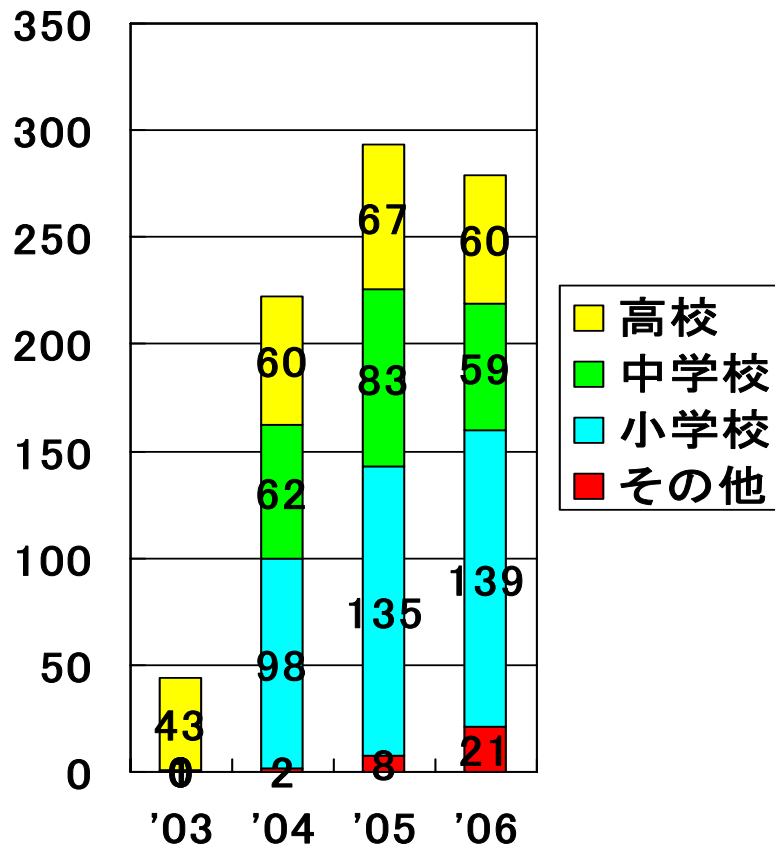


本取組のコンセプト(4)

- 若い世代を介した小中高大連携
 - 募集説明会、受入校担当者連絡会議、事後報告会、シンポジウムの開催
 - 若い世代を教える組織として、小中高大が連携する場の開拓
- ⇒Q: 小中高大が共有すべき課題とは？

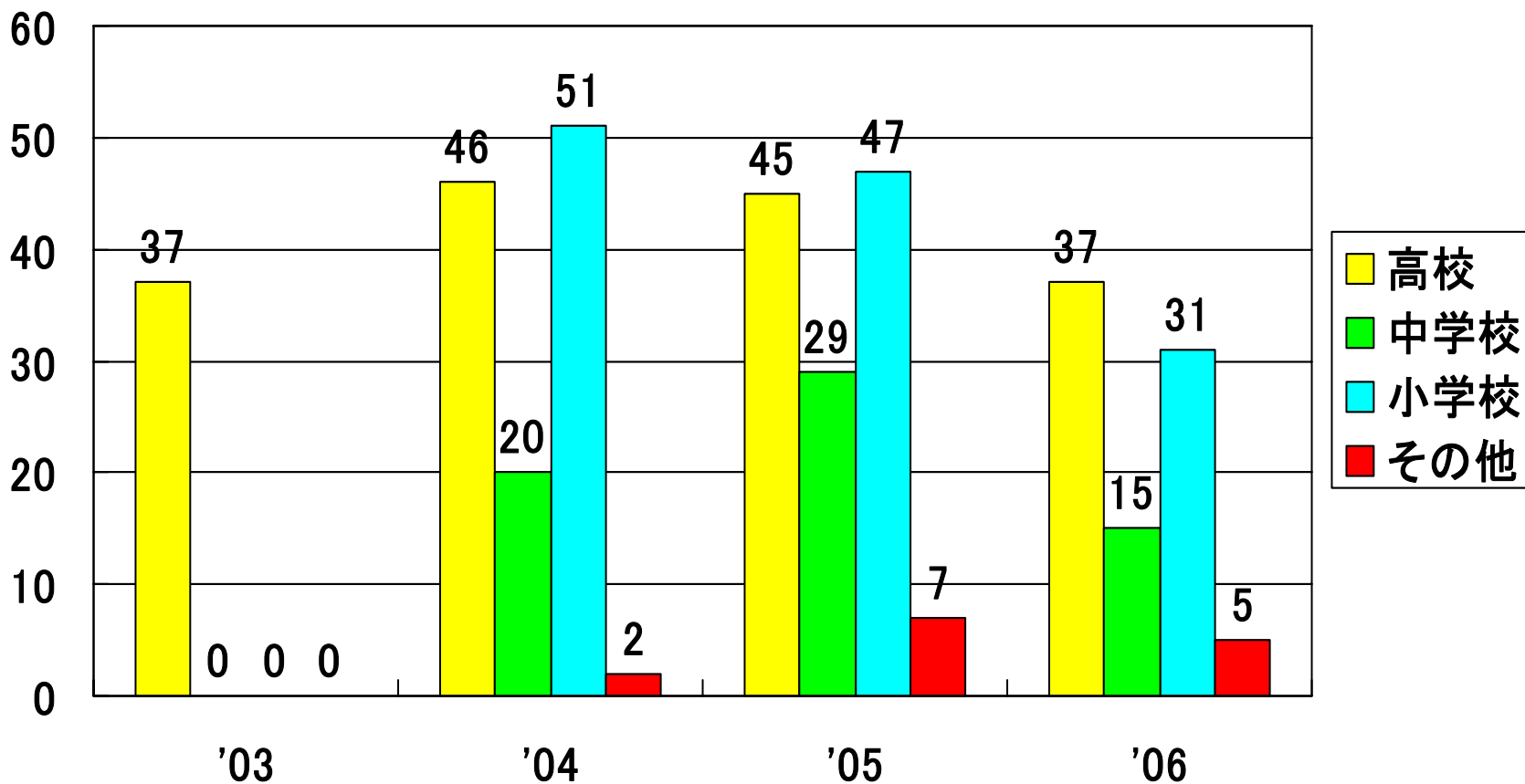
本取組の実績(1)

受入申込校と受入可能学生数



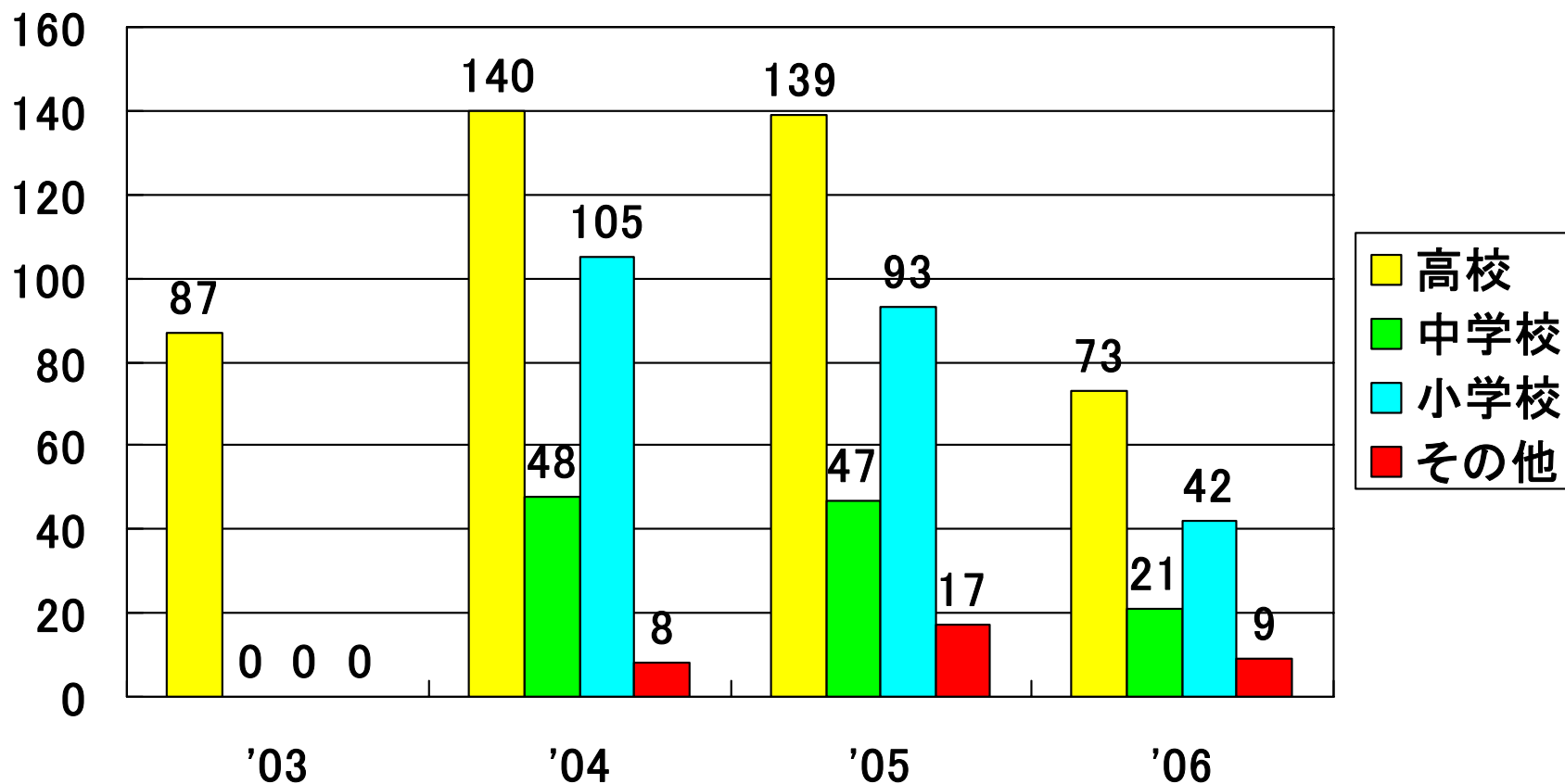
本取組の実績(2)

実際に学生を派遣できた学校数



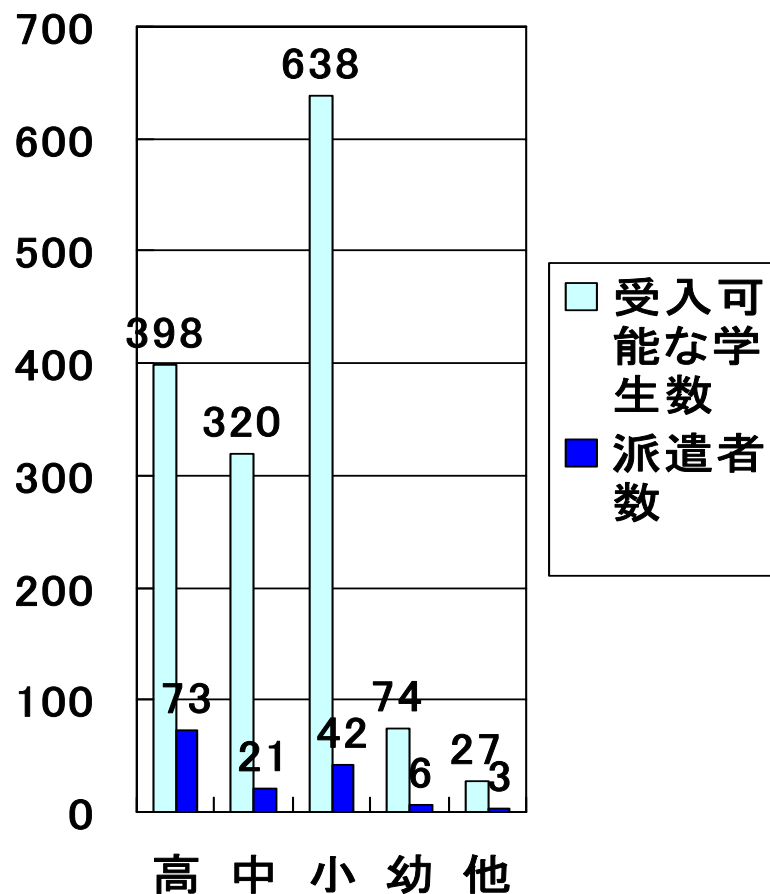
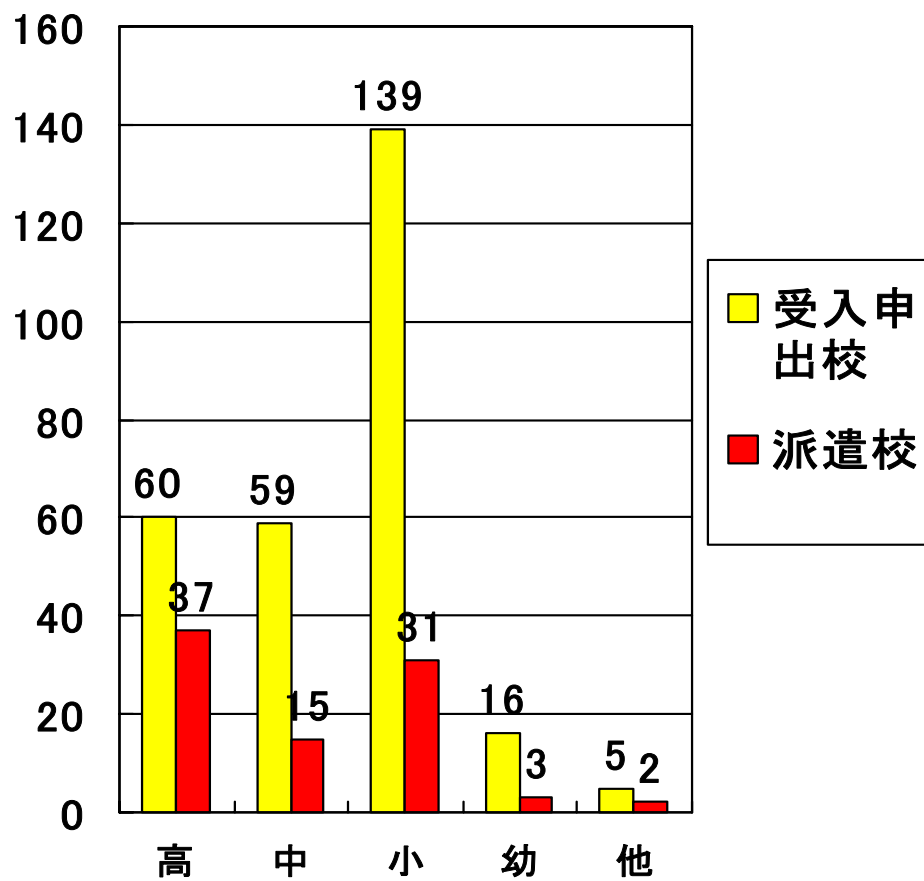
本取組の実績(3)

派遣した学生数



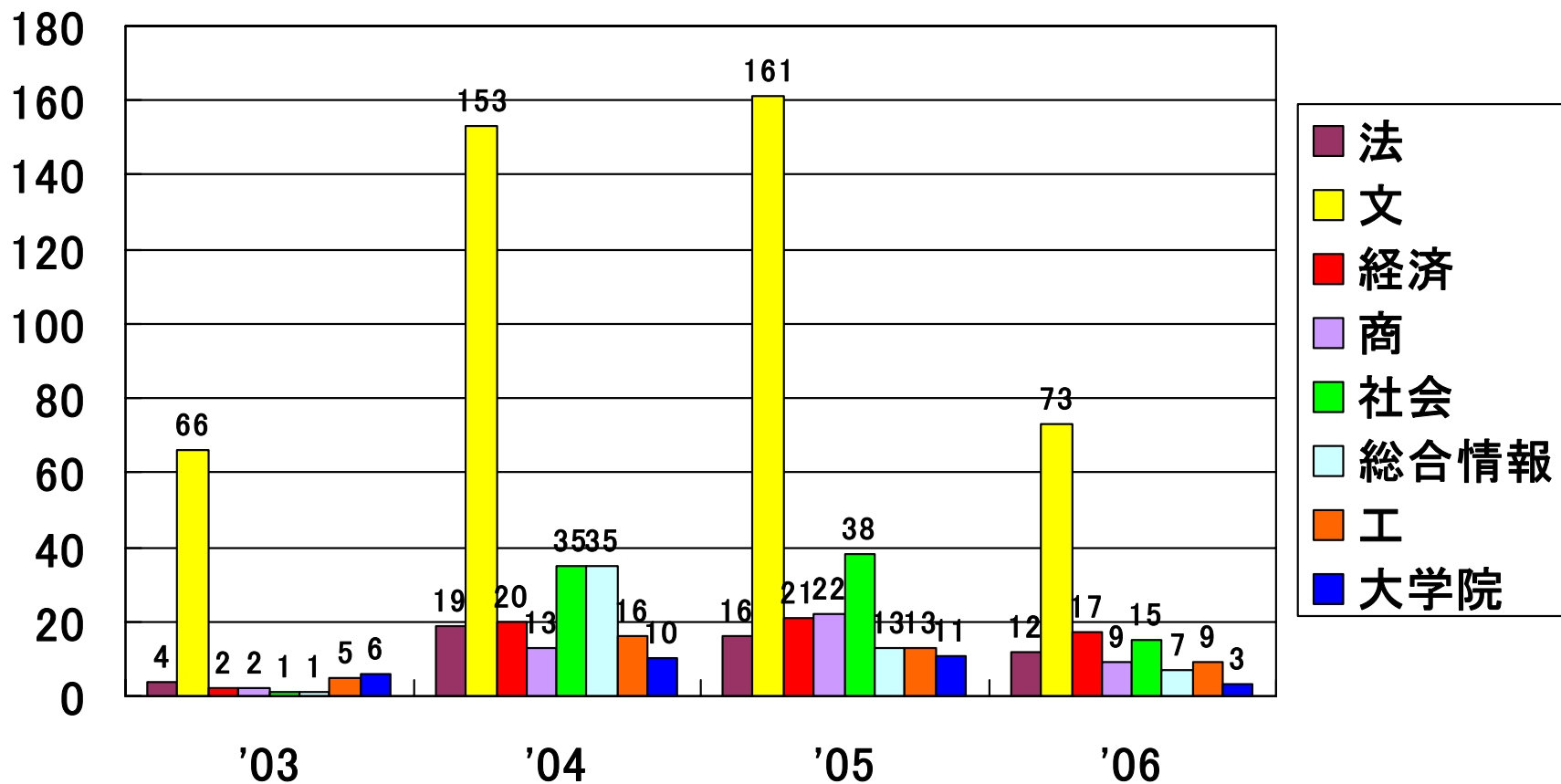
本取組の実績(4)

受入申込と実際の派遣の対比



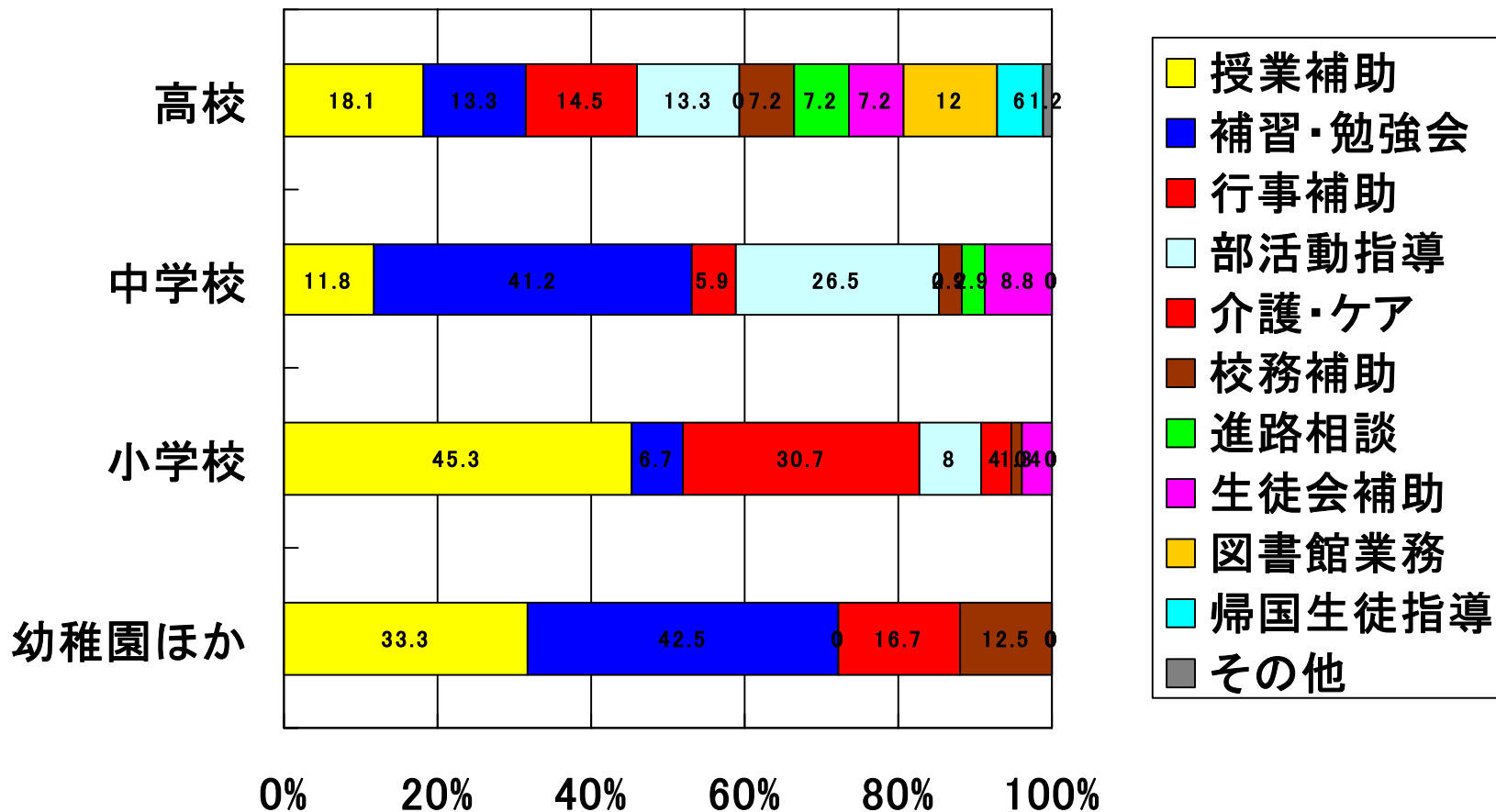
本取組の実績(5)

学部別学生数



本取組の実績(6)

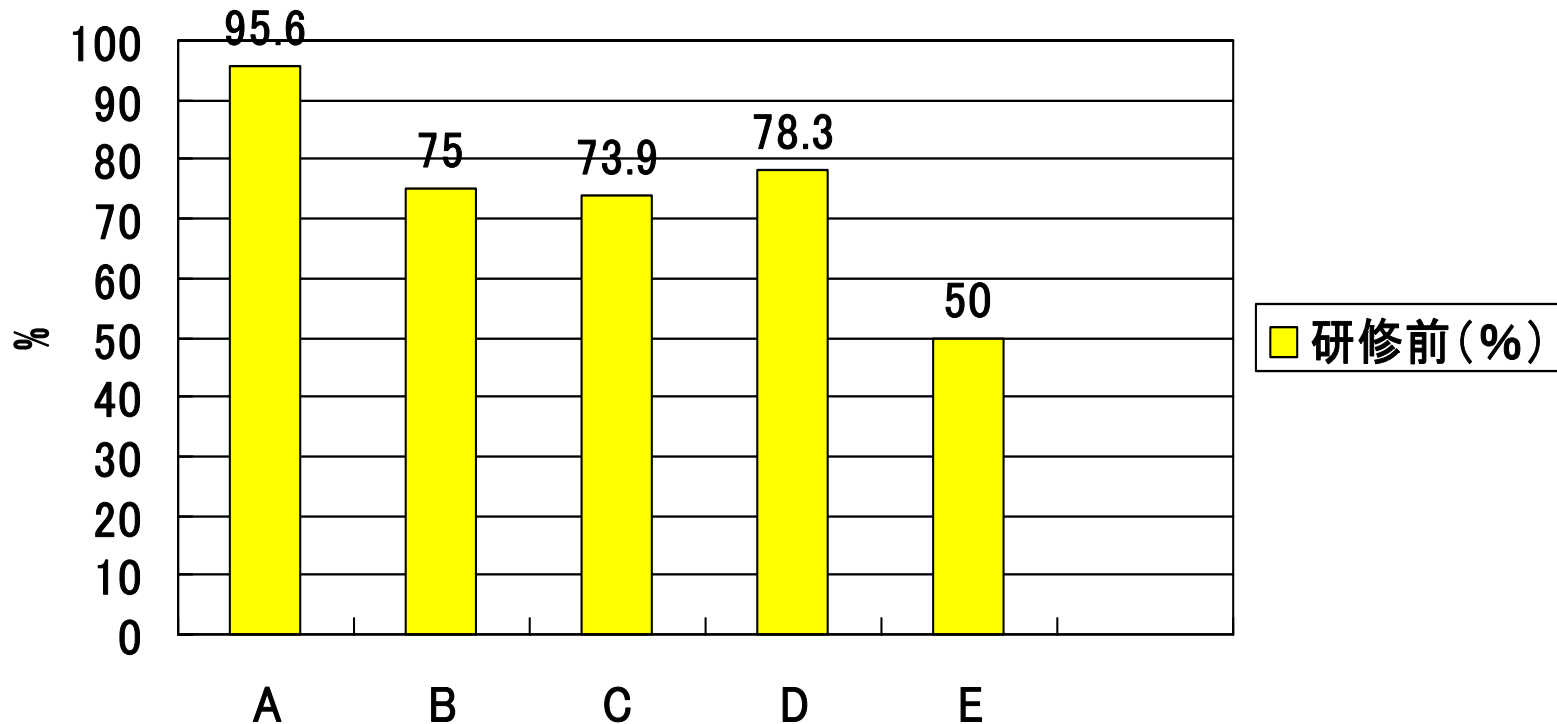
学生が研修した内容



本取組の実績(7)

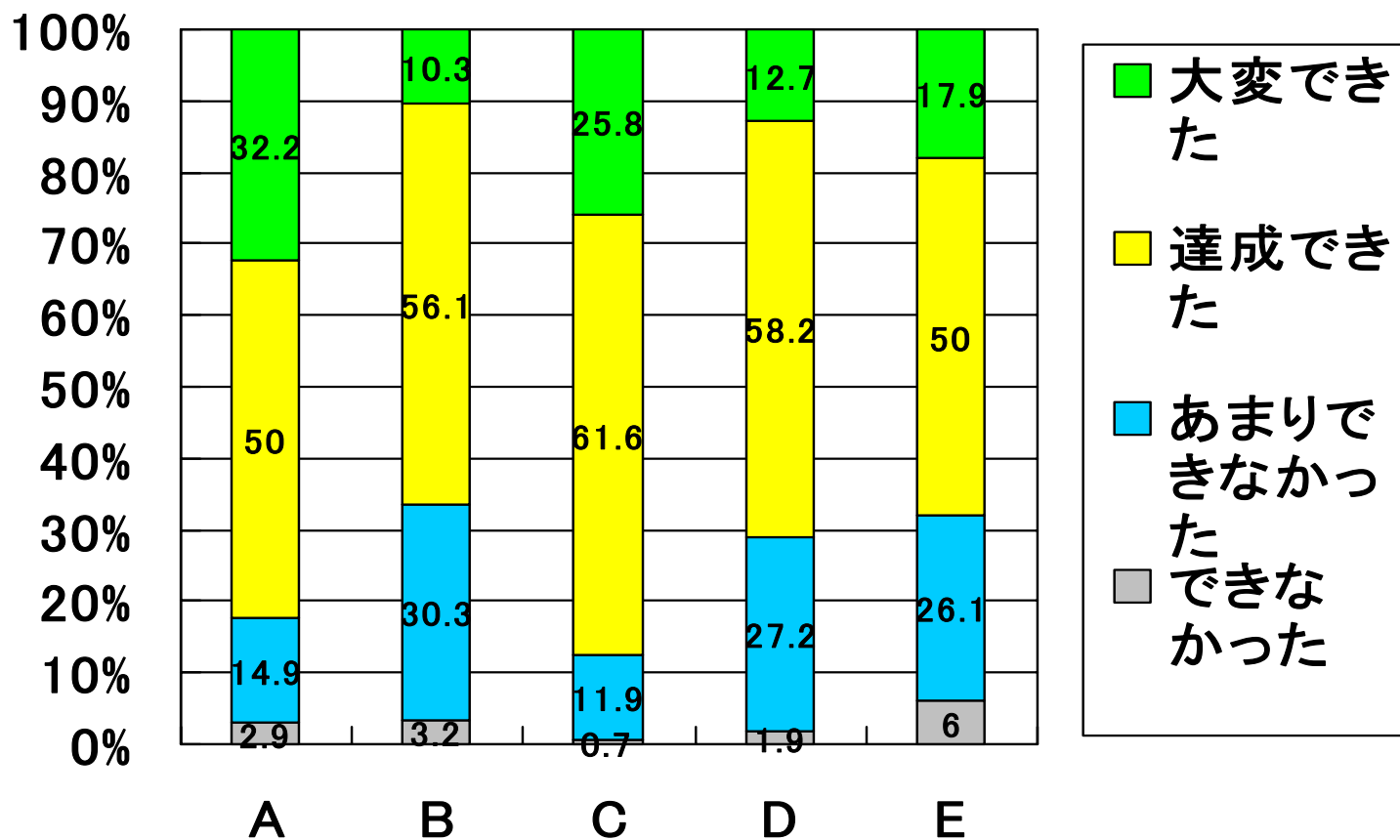
学生が事前にたてた達成目標

A: 生徒とのふれあい、B: 能力・スキルの向上、C: 教育実習と異なる教職体験、
D: 可能性の発見、E: 就職活動への意識向上(2005年度調査)



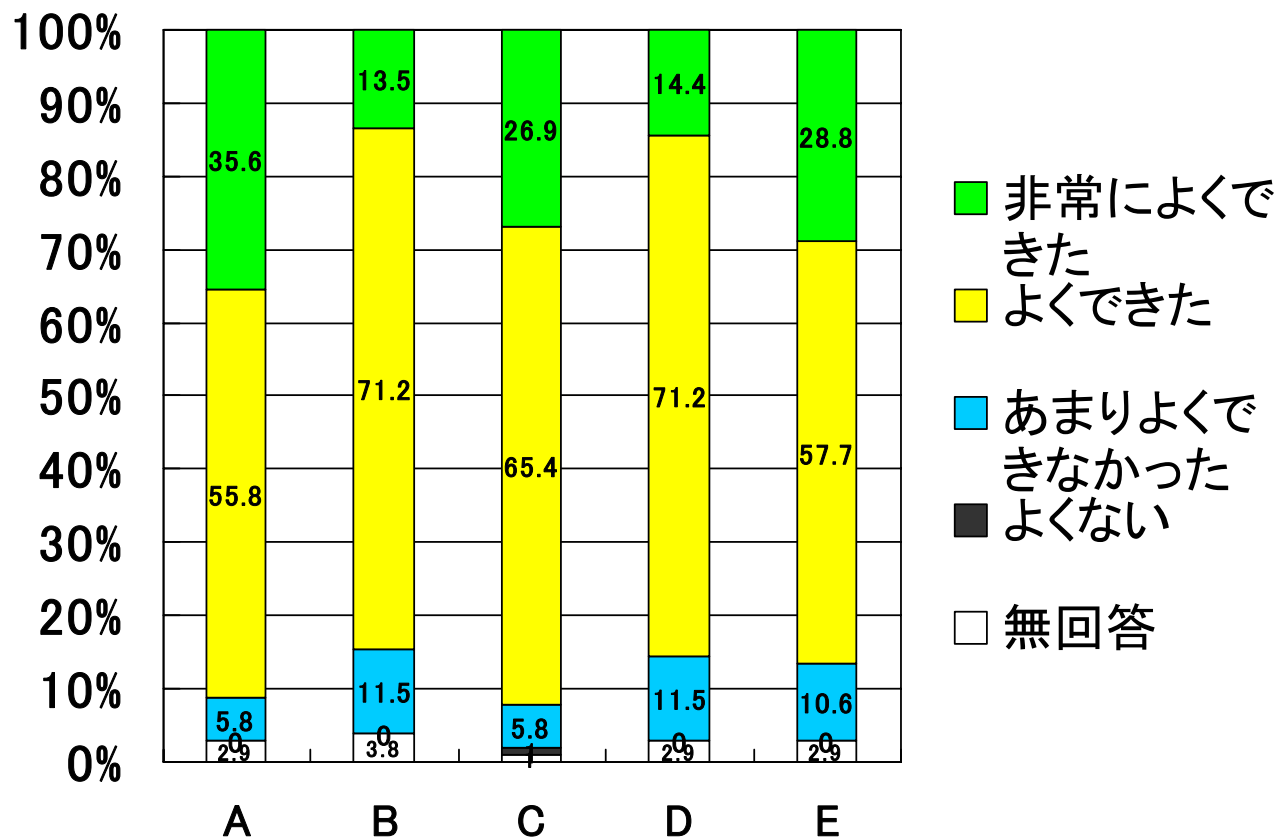
本取組の実績(8) 学生自身による自己評価

A: 生徒とのふれあい、B: 能力・スキルの向上、C: 教育実習と異なる教職体験、D: 可能性の発見、E: 就職活動への意識向上



本取組の実績(9) 学校・園による評価

A: 生徒とのふれあい、B: 能力・スキルの向上、C: 教育実習と異なる教職体験、D: 可能性の発見、E: 就職活動への意識向上





本取組のコンセプト 再掲

- キャリア形成をうながす
- 学生の人間的成長をうながす
- ジェネレーションギャップの解消
- 若い世代を介した小中高大連携

特色GP、教員養成GPにおける 教職に通じる教育の取組

- 教科教育法の充実 例、沖縄国際大など
- 教職科目と人間形成の有機的統合 例 上越教育大など
- 地域・教育委員会と大学との連携 例 佛教大、玉川大、宮崎大、横浜国大、秋田大、和歌山大、兵庫教育大など
- ボランティア活動 不登校児支援 例 福井大、熊本大、福岡教育大など



本取組の問題提起 再掲

- Q: 教員にとくに必要な資質とは何だろうか？
- Q: 学齢ごとに分断されがちで、また、少子化ゆえに減りつつある若い世代のつながりを生み出す必要がないか？
- Q: 小中高大が共有すべき課題とは？